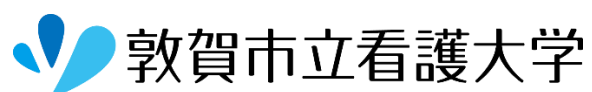


敦賀市立看護大学

地域・在宅ケア研究センター活動報告

令和5年度

地域・在宅ケア研究センター



はじめに

地域・在宅ケア研究センター（以下、センター）は敦賀市立看護大学の使命の一つとして、地域の人々の健康を守り安心して暮らせることを目指した活動の拠点として2014年(平成26年)4月に設立されました。地域に根差し、現場に学び、地域に開かれた教育研究を推進するという看護学の特色の具体化に向けて、地域における看護職や医療保健福祉機関等との交流・連携を深めています。そして、地域における健康に関する課題とその解決方法を探求し、大学における学術研究を一層充実させると共に、看護職の資質向上に寄与することに努めてきました。

この数年は、新型コロナウイルス感染症等の関係から事業を縮小せざるを得ない状況が続いていましたが、今年度は計画通りに進めることができました。地域の方々からも「人と触れ合うことから遠のいていたので、地域の人や学生と交流できてありがたかった」という声を多数いただき、改めてセンターの活動意義を実感しています。

また、近年は、人々が住み慣れた地域で安心して自分らしく最期まで暮らすために「健康への意識づくり」と「住民同士のつながり（互助）を基盤とした地域づくり」が重要とされています。このためセンターでは“人々が集まる身近な場は、互助の基盤となる”という考えの元、昨年度から「看護大学健康講座(以下、健康講座)」という事業を地域住民になじみがある公民館においても開催しています。講座には、「学生サポーター養成講座」を受講した学生も参加し、地域住民の方々に温かく見守られながら、自分達で企画した「認知症とともに暮らす～みんなで支える暮らしのススメ～」という健康教育を実践することができました。これらの取り組みに、地域の方々からは「健康な頃・認知症軽度の頃から、サポートする関係づくりが大切だとわかった」「これから高齢になるので、人との話し合いを大事にしていきたい」など多くの期待が寄せられました。

これからも「地域に学び、地域に還すこと」を大切に、教育・研究活動の更なる充実、地域住民の健康づくりへの寄与を目指して、貢献していきたいと考えています。

令和6年3月

地域・在宅ケア研究センター長

家根 明子

目 次

はじめに

| | |
|--------------------------------|----|
| I. 地域・在宅ケア研究センターの概要 | 1 |
| 1. 研究センター設置の目的 | |
| 2. 研究センターの事業 | |
| 3. 組織構成 | |
| II. 教育 | 2 |
| 1. 看護研究方法論講座 | |
| 1) 看護研究方法論講座《入門講座》 | |
| 2) 看護研究方法論講座《研究サポート事業》 | |
| 3) 看護研究方法論まとめ | |
| 2. 看護大学健康講座 | |
| 1) 看護大学健康講座の開催計画と実施 | |
| 2) 看護大学健康講座まとめ | |
| 3. 地域・在宅サポート隊養成講座(学生サポーター養成講座) | |
| 4. 出張講演 | |
| III. 研究 | 10 |
| 1. 研究報告会 | |
| 2. 敦賀市民の健康に関する情報収集 | |
| IV. 地域活動 | 15 |
| 1. 敦賀市への事業協力 | |
| 2. 美浜町への事業協力 | |
| 3. ボランティア等への参加 | |
| 4. 敦賀市各種委員会等への参加 | |
| 5. 地域行事等への参加実績 | |
| V. その他 | 19 |
| 1. オープンキャンパス | |
| 2. Web オープンキャンパス(デジタルコンテンツ) | |
| 添付資料 | |
| 資料 1 看護方法研究論講座 実施要領 | 20 |
| 資料 2 敦賀市立看護大学研究報告会 実施要項 | 21 |

I. 地域・在宅ケア研究センターの概要

1. 研究センター設置の目的

地域・在宅ケア研究センター（以下「研究センター」という。）は、公立大学法人敦賀市立看護大学の使命の一つとして、地域の人々の健康を守り安心して暮らせることを目指した活動の拠点として設立されました。

地域に根差し、現場に学び、地域に開かれた教育研究をすすめるという看護学の特色の具体化に向けて、地域における看護職や医療保健福祉機関等との交流・連携を深めます。

また、地域における看護課題とその解決方法を探求し、大学における学術研究を一層充実させると共に、看護職の資質の向上に寄与します。

2. 研究センターの事業

研究センターの事業は地域住民の健康づくり、在宅支援などによる地域貢献、学生の学習活動と地域との連携や看護職の看護実践能力・研究能力支援のための教育、地域の健康評価における健康ニーズ調査などの研究を行います。教育、研究、地域貢献の事業内容は図1に示しました。

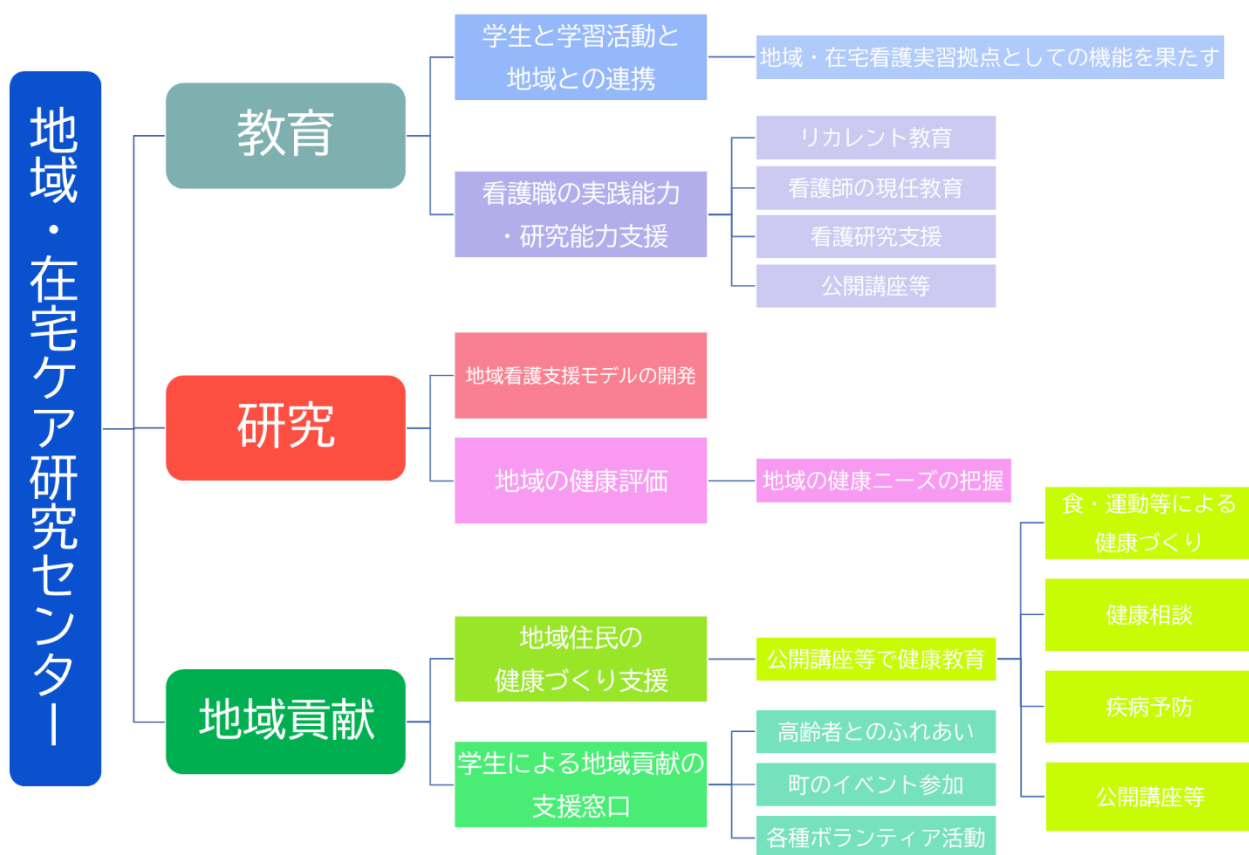


図1 地域・在宅ケア研究センターの事業内容

3. 組織構成

地域・在宅ケア研究センターの位置付けを図2に示しました。大学に直接附属する機関であり、メンバーは教職員全員です。

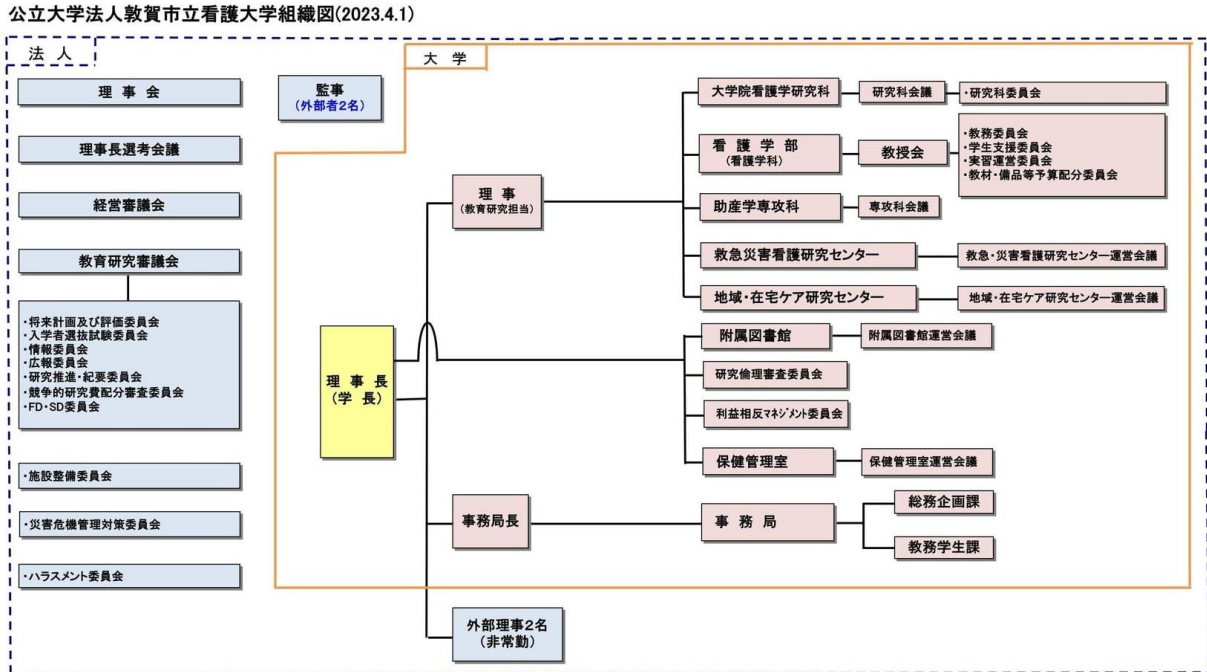


図2 地域・在宅ケア研究センターの組織構成

II. 教育

1. 看護研究方法論講座

看護研究方法論講座は、資料1の要領に基づいて入門講座と研究サポートを行うこととしています。

1) 看護研究方法論講座《入門講座》

令和5年度は、年度当初に下記の通り(表II-1)入門講座(案)を計画し、開催に向けて広報も行っておりま。本学で開催した看護研究方法論講座《入門講座》の過去5年分の受講者数の推移は、表II-2に示す通りです。

表II-1 令和5年度看護研究方法論講座《入門講座》概要

| | 日時 | 内容 |
|------|------------------|------------------------------|
| 第1日目 | 13:00~13:10(10分) | 1. オリエンテーション① 本講座のねらい、目標について |
| | 13:10~14:00(50分) | 2. 看護研究の概要と研究課題について |
| | 14:10~15:10(60分) | 3. 文献検索の方法 |
| | 15:20~16:20(60分) | 4. 文献のクリティーク |

2) 看護研究方法論講座《研究サポート事業》

これまでの看護研究方法論講座《入門講座》受講者から表II-3 の通り研究指導の申込があり研究サポートを行いました。過去5年の研究サポート実績は表II-4 に示す通りです。

表II-3 令和5年度看護研究方法論講座《研究サポート》の実績

| No. | テーマ※ | 施設名 | 担当教員 |
|-----|---|-----------------------|--------|
| 1 | 苦痛表現が困難な患者に対する看護師の客観的 苦痛評価方法の実態 | 敦賀医療センター 【2階病棟】 | 道重 文子 |
| 2 | 早期退院に向けての看護師の取り組み～入院 が長引く要因を分析し、傾向を知る～ | 敦賀医療センター 【3階病棟】 | 林 祐一 |
| 3 | 外来手術患者の不安軽減に向けた取り組み～ 術前説明導入の検討～ | 敦賀医療センター 【手術室】 | 山崎 加代子 |
| 4 | 強度行動障害を有する患者に対しての支援方 法の確立 | 敦賀医療センター 【ひまわり病棟1】 | 石橋 佐枝子 |
| 5 | 重症心身病棟におけるコロナ禍での患者の心 身（ADL/QOL）への影響 | 敦賀医療センター 【ひまわり病棟2】 | 濱園 環 |
| 6 | 重症心身障がい児(者)病棟に勤務する3年目以 下の看護師の困難に対する軽減への関わり | 敦賀医療センター 【ひまわり病棟3】 | 横山 浩誉 |
| 7 | 踵ラウンド始めました～踵部褥瘡発生率0%を 目指して～ | レイクヒルズ美方病院 | 池原 弘展 |
| 8 | COVID-19 患者の看護を实践した病棟看護師の 心理状況（R4より継続） | 市立敦賀病院 | 石橋 佐枝子 |

※申込時テーマ

表II-4 看護研究方法論講座《研究サポート》実績の推移

| 開催年度 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 |
|------|------|------|------|------|------|
| | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
| 件数 | 6件 | 1件 | 7件 | 11件 | 8件 |

3) 看護研究方法論まとめ

看護研究入門講座は、本学単独開催事業から、県内全域を対象とする福井県看護協会との共催事業へと新たな展開を進むことになりました。嶺南地域の看護職の看護研究はもちろん、福井県内の看護職の看護研究の学会発表等、レベル向上に寄与できるよう地域・在宅ケア研究センターとして取り組んでいきます。

2. 看護大学健康講座

地域住民の健康づくりを支援するとともに、地域に開かれた大学として住民が気軽に集い、交流する場を提供することを目的に、平成27年度3月から「看護大学喫茶」を開始してきました。平成30年度からは、講演をメインにした内容として、名称を「看護大学健康講座」として実施しています。内容は、教員の専門性を活かした講演、住民が自身の健康状態を知り、継続的に健康づくりに取り組める契機となるような健康チェック(体力測定)・健康相談です。

1) 看護大学健康講座の開催計画と実施

令和5年度は、4回の講座を実施しました。概要は表II-5に示しました。

表II-5 令和5年度看護大学健康講座の概要

| 日時 | 場所 | 内容 | 従事者 | 参加者 |
|----------------------------------|------------|--|--------------------------|-----|
| 第1回 7/6 (木) 10:00-11:45 | 本学 教室 A | 『認知症への理解を深める』 ①講演「認知症の理解」 林 祐一 教授 ②健康チェック ③健康相談 | 教職員 5名 学生 6名 | 19名 |
| 第2回 9/14 (木) 9:30-11:45 | 栗野 公民館 | 『認知症とともに暮らす』 ①地域・在宅サポート隊(学生)企画 「認知症を体験しよう」 ②健康チェック ③健康相談 | 教職員 8名 学外 3名 学生 7名 | 23名 |
| 第3回 11/2 (木) 9:30-11:45 | 栗野 公民館 | 『オレンジノートをつくる』 ①体験企画 「オレンジノートをつくってみよう」 進行 鈴木 隆史 講師 ②健康チェック ③健康相談 | 教職員 6名 学外 2名 学生 2名 | 18名 |
| 第4回 3/7 (木) 10:00-11:45 | 本学 体育館 | 『認知症予防につながる運動習慣をつくる』 ①講話・準備体操 鈴木 隆史 講師 ②体験企画 「脳と体を鍛える！モルック体験」 講師 本間 貴也 氏(敦賀楽しモルックの会) ③健康チェック ④健康相談 | 教職員 5名 学外 1名 学生 2名 | 11名 |

2) 看護大学健康講座まとめ

令和5年度は、学内で2回、学外で2回、計4回開催することができました。第2回では学生サポーター養成講座を受講した地域・在宅サポート隊による企画発表を実施しました。学生企画は好評で、学生と住民がともに学ぶ機会を得ました。表II-6は、これまでの看護大学健康講座の参加者数の推移です。今年度も地域住民に近い場所で開催し、看護大学健康講座への参加者数は、延べ71名となりました。今後も地域での健康講座を継続していく予定です。

なお、この講座は「未来協働プラットフォームふくい推進事業（大学等魅力アップ支援分）*」の助成を受けて実施しました。

表II-6 看護大学健康講座 参加者数の推移

| 開催年度 | 2019 R1 | 2020 R2 | 2021 R3 | 2022 R4 | 2023 R5 |
|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 開催回数 | 3 | 0 | 1 | 4 | 4 |
| 延べ 参加者数 | 168 | 0 | 14 | 124 | 71 |



*未来協働プラットフォームふくいは、県内大学等と産業界・医療界・金融界・自治体からなる新たな協議体として、令和3年11月29日に県主導で構築した連携組織です。これは「知と人材の集積拠点」である県内全ての高等教育機関の力を福井県の地方創生に活かすことを目的とした事業です。

3. 地域・在宅サポート隊養成講座（学生サポーター養成講座）

看護大学健康講座地域・在宅サポート隊養成講座の開催計画と実施

前年度に引き続き、令和5年度も“学生が地域を理解し、住民と一緒に学べる場を作る”ため、地域・在宅サポート隊養成講座を開催しました。今後も継続してゆく予定です。概要は表II-7に示しました。

なお、本年度より学生サポーターは「地域・在宅サポート隊」に改称しました。

表II-7 令和5年度看護大学健康講座地域・在宅サポート隊養成講座の概要

| 回 | 日時 | 場所 | 内容 | 参加者 |
|-----|-----------------------|------|---|-----|
| 第1回 | 6/7(水) 15:00-15:50 | 本学 | 講義「地域・在宅サポート隊に期待すること」 鈴木 隆史 講師 講義「認知症への理解を深める」 林 祐一 教授 | 6名 |
| 第2回 | 9/6(水) 9:30-11:00 | 本学 | 講義「健康教育の実践に向けて」 鈴木 隆史 講師 | 2名 |
| 第3回 | 9/9(金) 9:00-13:00 | 栗野地区 | 講義・演習「地域の理解（地区踏査）」 鈴木 隆史 講師 | 9名 |

学生のみなさんへ



地域・在宅サポート隊募集

- 地域住民への認知症予防や介護への支援、オレンジノート等に関する講演会の準備
- 認知症“当事者体験”の講師（授業で学んだことを地域住民に対し講師として伝えるチャンス!!）
- 地域住民とふれあい、看護学生としてどんどん提案してください

活動予定

- ・7/6 講座「認知症への理解を深める」の準備・運営
- ・9/14 講座「(仮)認知症とともに暮らす」の講師
- ・11/9 講座「オレンジノートをつくる」の準備・運営
- ・3/7 講座「認知症予防につながる運動習慣をつくる」の準備・運営

興味のある学生は以下のQRコードで登録してください



質問や参加希望者は教務学生課 金森まで
地域・在宅ケア研究センター



地域・在宅サポート隊養成講座

※学生サポーターから名称変更となりました

6/7 15:00 第1回地域・在宅サポート隊養成講座
「地域・在宅サポート隊の活動について」
「認知症への理解を深める（学生向け）」

7/6 10:00 第1回看護大学健康講座
「認知症への理解を深める（市民向け）」
健康チェックなどをお手伝い

9/6 9:30 第2回地域・在宅サポート隊養成講座
「健康教育の実践に向けて」

9/8 9:00 第3回地域・在宅サポート隊養成講座
「地域の理解」

9/14 9:00 第2回看護大学健康講座 in栗野公民館
「(仮)認知症とともに暮らす」
講師に挑戦するよ!

11/9 9:00 第3回看護大学健康講座 in栗野公民館
「オレンジノートをつくる」
オレンジノート作成の補助、健康チェックのお手伝いなど

3/7 10:00 第4回看護大学健康講座
「認知症予防につながる運動習慣をつくる」
参加者とゲームをしたり、準備や運営を手伝うよ

※講座のタイトルは変更となることがあります



なお、この事業は未来協働プラットフォームふくい推進事業（大学等魅力アップ支援分）の助成を受けて実施しました。

4. 出張講演

出張講演として、住民の皆さまや専門職の方を対象とした教養講座と健康講座を開設しています。教員のそれぞれの知識と知恵を活かした講演テーマのパンフレットを作成し、その中から聞いてみたいと思う内容があれば、クラブ、サークル、会社等のグループ単位で申し込んでいただき、日時、場所等を調整したうえで実施しています。令和5年度出張講演実施状況を表II-8に、出張講演参加状況の推移を表II-9に示しました。



表II-8 令和5年度出張講演実施状況

| No | 実施日 | 対象団体 | 講演テーマ | 講師 | 実施場所 | 受講人数 |
|----|--------|---------------------|--------------------------|-------------|-----------------|------|
| 1 | 6月6日 | 敦賀市 シルバー人材センター | 認知症になりにくいライフスタイル | 林 祐一 教授 | 敦賀市武道館 | 10名 |
| 2 | 6月29日 | 敦賀市立三島保育園 | 緊急時の対応 子どもに対する一次救命処置 | 濱園 環 教授 | 三島保育園ホール | 11名 |
| 3 | 6月30日 | みなみ高齢者学級 | 健康の保持・増進について 「健康は足から」 | 北村 隆子 教授 | 南公民館ホール | 42名 |
| 4 | 8月1日 | つるが男女共同参画 ネットワーク | 笑い与健康 | 鈴木 隆史 講師 | 敦賀市立看護大学 教室A | 51名 |
| 5 | 10月24日 | 敦賀市長寿健康課 | 認知症予防について ～頭も心も健康に～ | 横山 浩誉 講師 | あいあいプラザ | 28名 |
| 6 | 11月7日 | 敦賀市 婦人児童福祉協議会 | 足活をして元気にすごそう | 北村 隆子 教授 | 松原公民館ホール | 41名 |
| 7 | 11月24日 | 敦賀温泉病院 | だれでもできるハンドマッ サージ | 森本恵り子 助教 | 敦賀温泉病院 | 19名 |
| 8 | 2月22日 | 敦賀市中郷地区 社会福祉協議会 | 足活をして元気にすごそう！ | 北村 隆子 教授 | 中郷公民館 | 56名 |

表II-9 出張講演実施状況の推移

| 年度 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 |
|---------|------|------|------|------|------|
| 回数・参加者数 | (R1) | (R2) | (R3) | (R4) | (R5) |
| 開催回数 | 8 | 8 | 3 | 5 | 8 |
| 参加者数 | 293 | 191 | 102 | 302 | 258 |

『子どもに対する一次救命処置』



『だれでもできるハンドマッサージ』



III. 研究

1. 研究報告会

看護や地域医療保健福祉の質の向上を目指すことを目的として、平成 29 年度より年 1 回、研究報告会を開催しています。大学教員の研究成果や地域の看護職の実践活動の報告が行われます。

1) 研究報告会の実施

令和 5 年 9 月 29 日（金）に第 6 回敦賀市立看護大学研究報告会を開催しました。表Ⅲ-1 の通り 10 題の演題申し込みがあり（学外 7 題、学内 3 題）、研究成果や実践報告の口頭発表が 2 部構成で行われました。参加者は 160 名（演者 10 名、一般 19 名、学部生 104 名、教職員 27 名）でした。

表Ⅲ-1 第 6 回敦賀市立看護大学研究報告会プログラム

| | | | |
|---------------------|---|----------------------|--|
| | 第 1 部 座長 道重文子（敦賀市立看護大学） | | |
| 14 : 05 -15 : 05 | 誤嚥性肺炎、尿路感染症を繰り返す A 氏の再入院を防ぐ多職種連携による支援 | 名子友紀 | (医) 明峰会 指定訪問看護ステーションめいほう |
| | コロナ禍における手術中待機する家族の心配事 ～面会制限されている家族への実態調査を踏まえて～ | 高橋侑也 | 敦賀医療センター |
| | 術後経過に伴い病棟看護師が活用する手術情報の変化 ～無記名式質問紙調査を用いて～ | 川端里美 | 市立敦賀病院 |
| | 乳幼児期・学童期の子を持つ女性訪問看護師の仕事に対するやりがいと子育てへのサポート状況との関連 | 富井節 | 杉田玄白記念 公立小浜病院 |
| | 「看護の質」と「効率化」を追求したセル看護提供方式導入への取り組み | 杉田綾子 | (医) 保仁会 泉ヶ丘病院看護部 |
| 15 : 05 -15 : 15 | 休憩 | | |
| | 第 2 部 座長 伊部亜希（敦賀市立看護大学） | | |
| 15 : 15 -16 : 15 | チーム湯の里で取り組もう！ ～介護老人保健施設における多職種協業に向けた取り組み～ | 横山実 | (医) 保仁会 介護老人保健施設 湯の里ナーシング ホーム |
| | 睡眠薬と睡眠の関連性について～減薬への取り組み～ | 佐飛裕一 | (社) 敬仁会 第 2 溪山荘ぽっぽ |
| | 敦賀消防団機能別班(学生消防団員)活動の紹介 | 中村友美 木水明花 仲野泰心 | 敦賀市立看護大学 4 年生 |
| | 手指の ATP および角質水分量からみた精油の清浄・保湿作用に関する研究～擦式手指消毒剤との比較から～ | 石田瑠美 | 敦賀市立看護大学 |
| | こだわりの強い学生に対して教員が「待つ」という関りの考察 | 池原弘展 | |

2) 研究報告会の評価

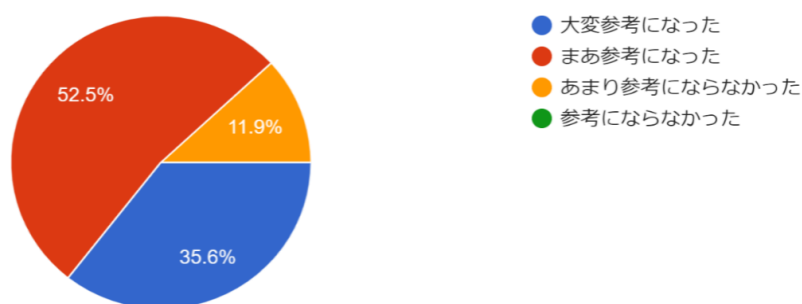
参加者のアンケート結果は、以下の通りです。また、これまでの演題数および参加者数は表Ⅲ-2に示す通りです。

《学生》

1. 参加者：104名(回収数 59、回収率 56.7%)

| | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 大学院生 |
|-------|-----|-----|------|------|------|
| 人数 | 0 | 1 | 55 | 48 | 0 |
| 割合(%) | 0.0 | 0.9 | 52.9 | 46.2 | 0.0 |

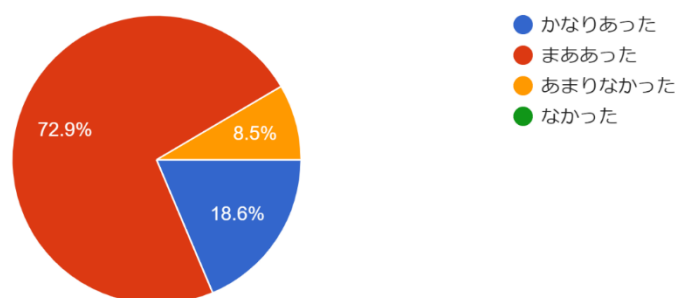
2. 卒業研究・看護研究に向けて参考になりましたか？



■参考になった理由

- ・研究の分析方法、発表の仕方、まとめ方
- ・PWなどの資料の作り方
- ・新しい視点を知ることができた
- ・何を重点的に考えるのかが少しわかって参考になった。
- ・対照的な条件であるかということ等実験に関してはしっかり条件を揃える必要があること
- ・多職種連携の重要性
- ・どのようなことを研究するとよいのか参考になった
- ・臨床の場で行われている研究がどのようなものがあるのかを知ることが出来た
- ・レイアウトや展開の進め方を学びました。
- ・どのように研究を進めていくのかをなんとなく理解することができた
- ・研究の流れがわかった
- ・卒業研究の発表へのイメージに繋がった
- ・研究の道筋や研究の統計処理方法など
- ・セル看護方式の導入によって患者の変化にすぐ気づけたり、患者のちょっとした発言を汲み取れることは不安の軽減にもなると考えた。また、教員や実習スタッフが、学生が安心出来る場所を作ることで、学生は精神的苦痛を少なくし、実習を行えると考えた
- ・先生方や施設の方の、実習や現場での学びや現状を知れた
- ・教員が待つという関わりの考察
- ・臨床での研究について知ることができ、視野が広がった
- ・どのような研究方法を行うのかまた研究結果からどういった考え方をするのが参考になった
- ・研究における説明と論文の進行、統計データを実際に使うことによる有効性について

3. 興味深い内容はありましたか？



■興味深かった内容

- ・セル看護提供方式(4)
- ・仕事のやりがいと子育てへのサポートの有無の関係について
- ・女性訪問看護師のやりがいの背景
- ・周術期に興味があるので周術期の研究は興味深かった。
- ・こだわりの強い学生に対して教員が「待つ」という関わりの考察(9)
- ・手指衛生や睡眠薬の関係性について
- ・睡眠薬と睡眠の関連性について～減薬への取り組み～(5)
- ・アルコールの消毒
- ・睡眠薬を少しずつ減らすことで、睡眠の質が高まり途中覚醒が少なくなるということが、薬の力に頼るだけではないと感じた。
- ・「看護の質」と「効率化」を追求したセル看護提供方式導入への取り組み
- ・睡眠薬と睡眠の関係性について(2)
- ・様々な視点を持って患者と接することが大切だと学んだ。
- ・敦賀消防団機能別班（学生消防団員）活動の紹介」(2)
- ・手指の ATP および角質水分量からみた精油の清浄・保湿作用に関する研究～擦式手指消毒剤との比較から～(2)

■感想

- ・卒業研究の参考になりました(6)
- ・実際に働く看護師のお話が聞けてよかった
- ・学生以外の発表を聞くことがないのでいい機会になった。
- ・大変興味深い内容だった(4)
- ・今後の学習においてとても勉強になる内容でした。
- ・いろいろな分野の研究があり、自分自身も来年卒業研究するため参考にしたいと思う。
- ・内容が少し難しく、このような内容を卒業研究で自分がやると思うと無理だなと感じた。
- ・難しい内容もあったが、興味深い内容もあり、納得できたことや新しく発見できたこともあり良い機会となった。
- ・研究の進め方や発表の仕方が参考になった(2)
- ・自分達の今後の研究にあたりどのような形で研究を進めるか、発表するかなど大変参考になった
- ・興味深い内容が多かったため、今後も参加していきたい(4)

- ・発表のしかたなどを学ぶことができた。
- ・一般の方も参加されることで第三者からの正直な意見が聞けて良かった
- ・興味深い話を聞くことが出来て良かった
- ・色々な研究があって面白かった
- ・興味のある研究ばかりで面白かった
- ・いろんな研究が聞けてよかった
- ・教員がどのような研究や考えを持っているのかを少し知ることが出来た(2)
- ・ひとつひとつが短くて聞きやすかった
- ・研究の目的、方法、結果、について報告の仕方について理解することができてよかった。
- ・分かりやすく、研究について学びました。
- ・卒業研究を行うにあたり、どのような視点で考えたら良いのかを知ることができた。
- ・たくさんの研究を聞いて見聞を広げることができた
- ・今後卒業研究をする上で、どのような方法を用いるのか、アプローチの仕方などの参考になった。
- ・難しくて分からないところもたくさんあったけど、ためになることも沢山知れたのでよかった。
- ・内容や研究方法などについて興味深く勉強になりました。
- ・長い時間だったが、有意義な内容もあった。
- ・研究発表の方法を理解し、研究に必要な情報が様々であり、課題の改善のために活用できるのだと学んだ。
- ・臨床の専門家の方々のお話を聞けて、紙面上の事例ではない臨床事例であったため非常に勉強になった
- ・少し難しい部分もあった。パワーポイントを印刷した冊子があってもよかった。
- ・多くの研究をしていると分かった
- ・後期の実習や4年生の卒業研究の参考になった。
- ・参加して良かった
- ・「へー！」と思うような内容もあって面白かった。研究というのは大変だなと感じました。
- ・今後卒業研究があることを踏まえてまた聞きたい。
- ・とても貴重なお話を聞くことが出来た。
- ・泉ヶ丘病院の看護提供方式の研究がとても興味深かったです。1人で患者さんに関わるのは不安が大きいけれど一人一人の患者さんに深く関わることでより質の高い看護が提供できるのではないかと思った。
- ・地域の方もいらっやって幅広い意見があって良かった。
- ・様々な所属の方がお話をしてくれて、勉強できた

《一般参加者》

■感想

- ・労働人口の減少、残業時間の削減など、看護職の環境が様変わりする中で、現場で働く皆さんが様々な工夫している内容発表があった。
- ・様々な職種の方の話を聞くことが出来てよかった
- ・一般人からすると、日程的に発表数が多く感じられ、短時間で早口で進んでしまう発表が多かったと感じた。質問したくても内容が理解できないままでは質問できない。
- ・少し発表数を減らして、発表内容を理解できるよう工夫していただけると有り難いです。

- ・研究発表と活動報告は分けた方がいいのかな、と思った。
- ・多少スライドが後方では見えにくかったのが残念
- ・看護学生が学生消防団として活動していることをはじめて知った。
- ・学生目線での質問を聞きたかった。

表Ⅲ-2 敦賀市立看護大学研究報告会 演題数・参加者数の推移

| 年度 | 2019** (R1) | 2020 (R2) | 2021* (R3) | 2022 (R4) | 2023* (R5) |
|----------|----------------|--------------|---------------|--------------|---------------|
| 演題数・参加者数 | | | | | |
| 演題数 | 16 | (中止) | 8 | (中止) | 10 |
| 参加者数 | 56 | | 115 | | 160 |

*参加者数に報告者以外の教職員は含まれず

3) 研究報告会まとめ

今回の報告会に参加した学生の意見から、学生の研究への関心が高める教育的な機会ともなっていることが伺えました。また、参加頂いた住民の方からは、発表数が多かった、研究発表と活動報告を分けた方がよいというご意見、学生の消防団としての活動を知った、学生の質問を聴きたかった等、学生への期待等のご感想をいただきました。今年度のご意見を踏まえ、次年度は、プログラムを事前に大学ホームページ等でお知らせできるように努めていきたいと考えます。

今後も看護や保健医療福祉からの多様な実践報告を募り、研究報告者、参加者双方の理解と交流が深まり、地域での研究活動がより推進されることを目指していきます。

発表の様子



2. 敦賀市民の健康に関する情報収集

敦賀市の健康課題を把握することを目的に、敦賀市民を対象に実施した令和元年度の調査結果では、暮らしの中に運動習慣を取り入れたり、食事に気をつけているといった記載が見られる一方で、疲れやすさや足腰の痛みなど、心身の不調を気にする記載も多く見られていました。また、高齢者世帯で介護をしていることや、高齢独居であることから、将来に向けて不安があること、地域の過疎化や高齢化を心配する記載も多く見られていました。

令和元年度の敦賀市との意見交換では、敦賀市が抱えている課題として以下の3点が挙げられました。

- ① 健康に関する知識の普及、啓発（例：イキイキ健活プラス1）に取り組んでいるが、継続的な住民の主体的な実践に繋がりにくい。
- ② 健康無関心層に関心を持ってもらうための工夫が必要

③ 健康づくりを地域で担うリーダーの養成が必要

これまで分析した内容や、意見交換で確認されたこと、看護大学健康講座のアンケートの結果等をもとに、令和5年度も各種事業の計画・実施を行ってきました。令和5年度看護大学健康講座参加者の声として、次のような内容があげられました。

1) 看護大学健康講座で今後取り上げてほしい内容

医療情勢に関すること、難病などの病気に関すること、健康に良い食品や運動などの暮らしの中の健康に関すること、認知症や世代を超えた関わりなどライフサイクルと健康に関すること

2) 現在取り組んでいる健康づくり

栄養バランスのとれた食事や睡眠時間の確保、ウォーキングをはじめとする運動、市や地区の運動教室をはじめとする催しへの参加、介護やすらぎカフェやふれあいサロンなど集いの場への参加、知人とのお茶会や意識的な外出

3) 自身の健康で気になるところ

気分の沈みややすさ、疲れやだるさ、睡眠の質、肥満、足腰の不調、認知機能の低下、健康診断で指摘されたところ、高血圧などの病気

今後も、敦賀市民の健康に関する情報を継続して集積して分析を深め、地域の健康課題を明らかにしていきたいと考えています。敦賀市と協働し、学生の力も取り入れながら、地域に根ざした健康づくりについて模索し、センターの事業に反映していきたいと考えています。

IV. 地域活動

1. 敦賀市への事業協力

敦賀市では、平成28年度から介護予防事業として「男のための元気づくり道場」(全5回)、「女性のための元気づくりスクール」(全5回)が実施されています。

令和5年度は、それぞれ各1回の講義依頼に協力しました。内容は以下の通りです。

1) 男のための元気づくり道場

(1)実施日 令和5年10月16日(月)

(2)テーマ 生活習慣病について

(3)講師 北村 隆子 教授

(4)参加者 12名

(5)参加者の感想

- ・靴ひもをその都度結ぶようになりました。
- ・教室後のアンケートにて生活習慣病について理解できた。



(写真は敦賀市長寿健康課よりご提供いただきました)

2) 女性のための元気づくりスクール

- (1)実施日 令和6年1月19日(金)
- (2)テーマ ロコモティブシンドロームについて
- (3)講師 鈴木 隆史 講師
- (4)参加者 24名
- (5)参加者の感想

- ・女性の介護が必要となる要因について理解できた。
- ・段を上がる時、軽く上げられるようになった。
- ・これからも継続していきたいと思った。
- ・筋力は「90才になっても付ける事ができる」は心に残った。



(写真は敦賀市長寿健康課よりご提供いただきました)

2. 美浜町への事業協力

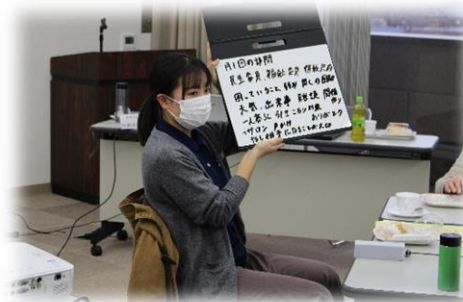
美浜町では、地域に暮らす病弱や寝たきり、ひとり暮らしなどの高齢者を定期的に訪問し、「話し相手」になることによって暮らしの支え合い活動を行う「老人家庭相談員」の養成のため、研修会を隔年に開催されています。

今回の研修会では、学生の学習機会の確保および地域との交流などの効果を期待し、学生サポーターもグループディスカッションに参加しました。内容は以下の通りです。

1) 「老人家庭相談員研修会」

- (1)実施日 令和6年3月1日(金)
- (2)テーマ 介護を“悔護”にしないために今からできること
- (3)講師 鈴木 隆史 講師
地域・在宅サポート隊 3名
- (4)参加者 17名
- (5)参加者の感想

- ・身近なことを題材にした内容で相談員活動に活かされる。
- ・温かい雰囲気の中で実のあるディスカッションができとても楽しかった。



3. ボランティア等への参加

ボランティア等への参加実績及び年次推移は表IV-1、表IV-2に示す通りです。

表IV-1 令和5年度ボランティア等参加実績

| No | 実施日 | イベント名 | 依頼者 | 場所 | 内容 | 参加人数 |
|----|--|----------------------------|-------------------------|----------------------|----------------------------------|--|
| 1 | 5月14日 | 自転車救命隊のサポートボランティア | 救命ボランティアREM | 美浜町 丹生特設会場 | 美浜町五木ひろし ふるさとマラソン 救護活動サポート | 学生6名 教員1名 |
| 2 | 6月4日 | クリーンアップふくい大作戦 | 敦賀市 | 気比の松原 | 海岸清掃 | 学生5名 |
| 3 | 5月13日 6月10日 8月19日 9月2日 10月21日 11月11日 12月9日 1月20日 2月10日 3月9日 | 「遊びと学び」塾 | 寺子屋 「遊びと学び」塾 | 栗野公民館他 | 学習ボランティア | 学生3名 学生3名 学生2名 学生1名 学生2名 学生1名 学生3名 学生1名 学生1名 学生1名 |
| 4 | 7月28日 | 人権ボランティア | 福井地方法務局 福井県人権擁護委員連合会 | 県内各所 | 人権擁護啓発活動 | 学生7名 (登録数) |
| 5 | 10月3日 | めいほう祭り | 医療法人 明峰会 | 明峰クリニック 介護施設 気比の風 | 祭りの屋台運営 | 学生7名 |
| 6 | 10月28日 | 市立敦賀病院 健康応援フェスタ 2023 | 市立敦賀病院 病院フェスタ実行委員会 | 市立敦賀病院 | 各種コーナー アシスタント | 学生4名 |

表IV-2 ボランティア等への参加実績の年次推移

| | 2019(R1) | | 2020(R2) | | 2021(R3) | | 2022(R4) | | 2023(R5) | |
|-----|----------|------|----------|------|----------|------|----------|------|----------|------|
| | 件数 | 延べ人数 | 件数 | 延べ人数 | 件数 | 延べ人数 | 件数 | 延べ人数 | 件数 | 延べ人数 |
| 学 生 | 7 | 66 | 2 | 5 | 4 | 14 | 5 | 25 | 6 | 48 |
| 教職員 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |

4. 敦賀市各種委員会等への参加

敦賀市が主催する行事や各種委員会への参加実績及び年次推移は表IV-3、表IV-4に示す通りです。

表IV-3 敦賀市の各種委員会等への参加実績

| No | 実施日 | 委員会等名 | 依頼者 | 場所 | 内容 | 参加人数 |
|----|--------|------------------------|------------|-----------|-------------------------------|------|
| 1 | 7月14日 | 第42回敦賀マラソン大会参加記念品選定会 | 敦賀市教育委員会 | 敦賀市総合運動公園 | 敦賀マラソン大会参加記念品選定 | 学生2名 |
| 2 | 10月14日 | 講演会(敦賀市防災会) | 敦賀市危機管理対策課 | きらめきみなと館 | 生活者の視点で考える避難所の在り方 | 学生1名 |
| 3 | 11月20日 | 敦賀市議会報告会 | 敦賀市議会 | 本学教室B | 議会報告および大学生等との意見交換会 | 学生8名 |
| 4 | 12月25日 | 新しい総合計画策定に関する市民ワークショップ | 敦賀市ふるさと創生課 | 敦賀市役所 | 新しい総合計画の概要説明、ワークショップを通じた意見の聴取 | 学生7名 |

表IV-4 敦賀市の各種委員会等への参加実績の年次推移

| | 2019(R1) | | 2020(R2) | | 2021(R3) | | 2022(R4) | | 2023(R5) | |
|-----|----------|------|----------|------|----------|------|----------|------|----------|------|
| | 件数 | 延べ人数 | 件数 | 延べ人数 | 件数 | 延べ人数 | 件数 | 延べ人数 | 件数 | 延べ人数 |
| 学 生 | 0 | 0 | 2 | 5 | 3 | 8 | 2 | 5 | 4 | 18 |

5. 地域行事等への参加実績

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症となり、各地域にも活気が戻りつつあります。令和5年度に入り、サークル発表や学生消防団の活動を通して、学生・教職員の地域行事等への参加も再開されました。

地域行事等への参加状況及び年次推移を表IV-5、表IV-6に示しました。

表IV-5 地域行事等への参加状況

| No | 実施日 | イベント名 | 依頼者 | 場所 | 内容 | 参加人数 |
|----|-------|---------|--------|---------|------------------|---------------|
| 1 | 8月19日 | ふれあい夏祭り | 敦賀市昭和町 | 昭和町第一公園 | ダンスステージ(ダンスサークル) | 学生4名 教職員0名 |

表IV-6 地域行事等への参加実績の年次推移

| | 2019(R1) | | 2020(R2) | | 2021(R3) | | 2022(R4) | | 2023(R5) | |
|-----|----------|------|----------|------|----------|------|----------|------|----------|------|
| | 件数 | 延べ人数 | 件数 | 延べ人数 | 件数 | 延べ人数 | 件数 | 延べ人数 | 件数 | 延べ人数 |
| 学 生 | 4 | 21 | 0 | 0 | 1 | 11 | 0 | 0 | 1 | 4 |
| 教職員 | 2 | 3 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |

V. その他

1. オープンキャンパス

本学では、開学以来オープンキャンパスを毎年複数回開催しています。令和3年度から地域・在宅ケア研究センターの活動 PR と、本学学生が行う地域・在宅ケア研究センター事業への興味関心を高めるために、センターでの活動紹介の展示を行っています。今年度も、多数の高校生に興味をもっていただけました。



2. Web オープンキャンパス (デジタルコンテンツ)

地域・在宅ケア研究センターでは、令和3年度より動画投稿サイト (YouTube) にて、センターの活動 PR を行っています。本学のオープンキャンパスに来場できない高校生でも、より視覚的に情報を得ることができるようなコンテンツを目指していきます。



(左) Web オープンキャンパス特設サイト <https://sites.google.com/view/tsuruga-nu-weboc>

(右) 地域・在宅ケア研究センター紹介 <https://www.youtube.com/watch?v=U562HTKIUEI>

資料 1

看護研究方法論講座 実施要領

敦賀市立看護大学 地域・在宅ケア研究センター

1. 目的

- 1) 臨床現場における看護研究の推進をはかり、科学的思考の基で看護ケアが創造できる能力を身に付けることを目指します。
- 2) 看護研究の成果を当該施設内外で発表することにより、看護を探究する姿勢を高めることを目指します。
- 3) 研究発表を通して、それぞれの施設の研究課題や看護活動を相互に理解することを目指します。
- 4) 大学と当該施設の良好な関係を構築し、当該施設における医療・看護が円滑に行えることを目指します。

2. 対象者

対象者は、敦賀市、美浜町及び嶺南地域の医療・看護・保健・介護関係施設に勤務する看護職者とします。

受け入れ可能な研究指導件数は、個人・グループ等で 20 件程度とします。

3. 研究の進め方

- 1) 大学において看護研究方法の講義・演習を行います。
日時・内容の詳細は別途定めます。
- 2) 本学教員による研究の個人又はグループで指導を希望する方は、研究テーマを決定し、4 月末日までに研究指導申込書を用いて本学に提出して下さい。なお、研究テーマ決定にあたっては相談にも応じます。
- 3) 研究テーマに合わせて担当教員を決定します。
- 4) 担当教員決定後は、原則として共同研究者（本学の倫理審査を受ける権利の保証）として研究をすすめていただきます。
- 5) 研究発表会や学会、論文等で発表していただけることを期待しています。

平成 30 年 12 月改定

資料 2

敦賀市立看護大学研究報告会 実施要項

1. 目的

研究成果や実践活動を通して、看護や地域医療保健福祉の質の向上に資することを目的とする。

2. 対象者

- 1) 敦賀市及び美浜町の医療・看護・保健・福祉施設等に勤務する者
- 2) 一般市民など

3. 実施方法

- 1) 演題は医療・看護・保健・福祉等に携わる者から公募する。
- 2) 本学の教員は、原則として過去1年間に発表した研究成果を報告する。
- 3) 研究成果や実践内容を口頭発表する。
- 4) 開催は年1回とし、開催時期は秋季とする。
- 5) 報告会の世話人は大学教員が担当する。

令和5年度地域・在宅ケア研究センター運営会議 構成員

(○センター長、五十音順)

石橋佐枝子、鈴木隆史、高城絵美、林祐一、○家根明子、(事務局) 金森大輔

令和5年度 地域・在宅ケア研究センター活動報告書

令和6年3月31日発行

編集発行 敦賀市立看護大学

〒914-0814 福井県敦賀市木崎 78-2-1 TEL:0770-20-5500
